



2020年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

2020年1月31日

上場会社名 株式会社コラボス 上場取引所 東
 コード番号 3908 URL http://www.collabos.com/
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 茂木 貴雄
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役副社長 (氏名) 青本 真人 TEL 03(5623)3391
 四半期報告書提出予定日 2020年2月5日 配当支払開始予定日 -
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年3月期第3四半期の業績 (2019年4月1日～2019年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年3月期第3四半期	1,503	3.0	135	△32.5	134	△32.3	67	△49.6
2019年3月期第3四半期	1,459	2.4	201	△12.8	198	△13.3	134	△8.0

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年3月期第3四半期	14.13	13.76
2019年3月期第3四半期	28.13	27.27

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年3月期第3四半期	2,334	1,836	77.0
2019年3月期	2,246	1,764	77.0

(参考) 自己資本 2020年3月期第3四半期 1,798百万円 2019年3月期 1,730百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年3月期	-	0.00	-	0.00	0.00
2020年3月期	-	0.00	-	-	-
2020年3月期 (予想)	-	-	-	-	-

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2020年3月期の業績予想 (2019年4月1日～2020年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,060	4.6	192	△38.1	190	△38.3	95	△54.9	19.83

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：有

(注) 詳細は、添付資料P. 7「2. 四半期財務諸表及び主な注記(3) 四半期財務諸表に関する注記事項(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2020年3月期3Q	4,791,000株	2019年3月期	4,789,800株
② 期末自己株式数	2020年3月期3Q	32株	2019年3月期	32株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2020年3月期3Q	4,790,084株	2019年3月期3Q	4,777,603株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載される業績見通し等の将来に関する記述は、当社の現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいております。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
第3四半期累計期間	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	7
(重要な後発事象)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、海外経済の減速等の影響により輸出・生産において弱さがみられるものの、高水準を維持する企業収益や雇用所得環境の改善などを背景に、景気は緩やかな回復基調で推移しております。一方、米中貿易摩擦や中国をはじめとした新興国経済の動向、英国のEU離脱問題、中東における地政学リスクなど、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような環境の下、当社はコールセンター向けに各種クラウドサービスを提供しており、多くの企業においてシステムを自社構築するオンプレミス型からクラウドサービス型へと移行が進む中、当社はこの拡大するクラウドサービス型市場シェアを獲得すべく、オンプレミス型市場を主要ターゲットとして、主に電話系サービスを中心に拡販に努めてまいりました。

当第3四半期累計期間の売上高については、主に拡販の軸である電話系サービスCOLLABOS PHONEを中心に売上高を伸ばしております。

当社主力商品である@nyplaceにおいては、新規契約の獲得や既存顧客の業務拡大に伴う売上高の増加があったものの、契約期間満了に伴う終了案件の発生等による月額料金売上への減少が影響したことにより、期間平均利用席数は7,094席（前年同四半期比123席減）、売上高は1,158,868千円（同0.4%減）と、ともに微減となりました。一方、COLLABOS PHONEにおいては、既存顧客の業務繁忙に伴う減席等はあるものの、新規契約の獲得や通信売上の増加等により、期間平均利用チャネル数は1,225チャネル（同78チャネル増）、売上高は159,827千円（同33.7%増）となりました。

また、顧客情報管理系のサービスであるCOLLABOS CRM及びCOLLABOS CRM Outbound Editionにおいては、契約ID数の減少等による売上高の減少はありますが、電話系サービスと組み合わせたトータルソリューションの提供により、当社サービス全体の売上高に寄与しております。COLLABOS CRMについては、期間平均利用ID数は2,164ID（同25ID減）、売上高は106,425千円（同7.5%減）となりました。COLLABOS CRM Outbound Editionについては、期間平均利用ID数は725ID（同4ID増）、売上高は32,333千円（同10.9%減）となりました。

当第3四半期累計期間の売上原価は、866,958千円（同11.7%増）となりました。増加の主な内訳は、各サービスにおける回線料、ネットワーク機器等設備の保守費用、ホスティング費用、各サービスの設備投資に伴う償却費用等が増加したことによるものであります。製品・サービス別では、@nyplace関連で642,927千円（同9.4%増）、COLLABOS PHONEで138,223千円（同28.7%増）、COLLABOS CRM（Outbound Edition含む）で53,181千円（同19.1%減）となりました。

当第3四半期累計期間の販売費及び一般管理費は、500,783千円（同3.9%増）となりました。増加の主な内訳は、株主数の増加に伴う関連費用及び人的リソースの確保・拡充などに伴う費用の増加等によるものであります。

なお、当第3四半期累計期間におきましては、AI音声認識により通話内容をリアルタイムでテキスト化し、応対品質や顧客満足度の向上をサポートする「AmiVoice Communication Suite provided by コラボス」や、LINE株式会社が提供するコミュニケーションアプリ「LINE」を基盤とした法人向けサービス「LINE Account Connect」と当社「COLLABOS CRM」との連携によるチャット機能の提供、電話やメールに加えチャットやSNSなどのチャネルに対応するオムニチャネル（※1）ソリューション「XCALLY（エックスコーリー）」の提供を開始し、コールセンターの課題解決や顧客ニーズに対応する新たなサービスとして、電話系サービスとともに拡販を推進しております。

当社は今後も継続して、エンドユーザーと企業間の新たなコミュニケーションツールと顧客満足度向上並びに企業価値向上に貢献する新たなサービスや機能の提供に向け、開発を進めてまいります。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は1,503,427千円（同3.0%増）、営業利益は135,685千円（同32.5%減）、経常利益は134,725千円（同32.3%減）となりました。また、第2四半期会計期間において、関係会社株式評価損を特別損失として計上したことにより、四半期純利益は67,667千円（同49.6%減）となりました。

なお、当社の事業はクラウドサービス事業の単一セグメントのため、セグメント別の記載はしていません。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産・負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末に比べて87,940千円増加し、2,334,137千円となりました。主な要因は、関係会社株式の減損処理に伴う減少があった一方で、売掛金の回収に伴う現金及び預金の増加、@nyplace用設備への投資等に伴う有形固定資産の増加、COLLABOS CRM及びCOLLABOS PHONE用ソフトウェアへの開発投資等に伴う無形固定資産の増加によるものであります。

(負債)

当第3四半期会計期間末における負債は、前事業年度末に比べて15,972千円増加し、497,922千円となりました。主な要因は、未払法人税等、未払消費税等の納付による減少があった一方、未払金の増加、@nyplace用設備への投資等に伴うリース債務の増加によるものであります。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産は、前事業年度末に比べて71,968千円増加し、1,836,214千円となりました。主な要因は、利益剰余金の増加等によるものであります。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年3月期通期の業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2019年5月8日の「2019年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(2020年1月31日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

〔用語解説〕

※1. オムニチャンネル

実店舗やECサイト、アプリ、SNS等といった企業と顧客との接点となるあらゆるチャンネルを統合することにより、どのようなチャンネル(接点)においても同質の利便性で商品を購入したり、サービスを利用したりできる環境を実現すること。

本記載においては、それを実現するための機能やさまざまなチャンネルに対応したツールとしてオムニチャンネルソリューションと表現しています。

2. 四半期財務諸表及び主な注記

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,490,676	1,554,122
売掛金	234,454	199,357
商品及び製品	1,545	8
前払費用	23,020	26,955
未収還付法人税等	—	12,860
その他	2,953	4,969
貸倒引当金	△46	△39
流動資産合計	1,752,602	1,798,232
固定資産		
有形固定資産		
建物	33,293	33,493
減価償却累計額	△9,266	△13,461
建物(純額)	24,026	20,031
工具、器具及び備品	368,694	381,948
減価償却累計額	△347,340	△358,144
工具、器具及び備品(純額)	21,354	23,804
リース資産	455,921	572,555
減価償却累計額	△202,744	△249,722
リース資産(純額)	253,176	322,833
有形固定資産合計	298,557	366,669
無形固定資産		
ソフトウェア	65,378	71,933
ソフトウェア仮勘定	19,622	27,436
その他	414	414
無形固定資産合計	85,415	99,784
投資その他の資産		
関係会社株式	55,331	20,280
長期前払費用	853	208
差入保証金	28,016	23,541
破産更生債権等	13	10
繰延税金資産	25,420	25,420
貸倒引当金	△13	△10
投資その他の資産合計	109,621	69,450
固定資産合計	493,594	535,905
資産合計	2,246,197	2,334,137

(単位:千円)

	前事業年度 (2019年3月31日)	当第3四半期会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	77,743	77,634
短期借入金	10,000	10,000
リース債務	94,725	111,743
未払金	29,180	46,688
未払費用	4,031	1,010
未払法人税等	57,786	4,444
未払消費税等	22,138	3,001
前受金	1,221	1,874
賞与引当金	1,000	—
その他	2,437	1,491
流動負債合計	300,263	257,888
固定負債		
リース債務	181,686	240,034
固定負債合計	181,686	240,034
負債合計	481,950	497,922
純資産の部		
株主資本		
資本金	324,614	324,774
資本剰余金		
資本準備金	304,614	304,774
資本剰余金合計	304,614	304,774
利益剰余金		
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	1,100,905	1,168,572
利益剰余金合計	1,100,905	1,168,572
自己株式	△24	△24
株主資本合計	1,730,110	1,798,098
新株予約権	34,135	38,116
純資産合計	1,764,246	1,836,214
負債純資産合計	2,246,197	2,334,137

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
売上高	1,459,511	1,503,427
売上原価	776,486	866,958
売上総利益	683,024	636,468
販売費及び一般管理費	481,922	500,783
営業利益	201,102	135,685
営業外収益		
受取利息	6	7
受取手数料	1,648	1,985
違約金収入	—	520
雑収入	60	67
営業外収益合計	1,715	2,580
営業外費用		
支払利息	3,863	3,540
営業外費用合計	3,863	3,540
経常利益	198,954	134,725
特別利益		
新株予約権戻入益	2,000	207
特別利益合計	2,000	207
特別損失		
減損損失	979	—
関係会社株式評価損	—	35,050
特別損失合計	979	35,050
税引前四半期純利益	199,975	99,882
法人税等	65,585	32,214
四半期純利益	134,390	67,667

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期会計期間を含む事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。